

「母の目線＝信じて待つ」

使徒 1:1~5

この使徒の働きの著者であるルカは医者です。そして使徒たちが 40 日間イエス・キリストに会った後、彼らに命じられたことは何だったのか、イエス・キリストのバトンを受け継いだ人たちがどうやって生きてきたかについて書いてあります。

■ エンパワメント

エンパワメント・・・個人や集団が自らの生活への統御感を獲得し、組織的、社会的、構造に外郭的な影響を与えるようになること。 私たちには他の人の目線があります。ですから、他の人があなたに語る言葉でニュースによって変わる、友達言葉で変わる、親、夫、妻の発言によって変わるということです。そこで大事なのがエンパワメントです。では、人から言われたことをどうやって正しいかどうか判断するのでしょうか。 私たちは内側にいるといつもグチャグチャしているので、少し外側へ出て、個人、集団、生活について自らで統御感を持たなければならぬと言っているのです。弟子たちは、イエス・キリストと 3 年間共にいました。そして、イエス・キリストが十字架にかかって死んで絶望しました。自分がついて行くはずだった人が死んでしまったのです。どう生きていいかわからないのですから、弟子たちにとっては最悪です。そんな弟子たちに復活されたイエス・キリストが語られたのがこれです。

彼らと一緒にいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。(使徒 1:4)

私たちは待たないといけないうに待てないのです。母の役割は何なのかという、「待つ」ということです。「神は全てを知っている。しかし人はわからない。」「知っている人」「その相手がわかるようになるまで待たなければならない」ということです。しかし私たちは、このことに非常に愚かで、「わかっている」と待てません。例えば、幼い子が歩いていて、そこにつまずきの棒がある。その子は、つまずいて転んで、はじめて痛いことがわかります。しかし大人は、その子がつまずく物をもってしまいます。転ぶと痛いことを知っているから、とってしまうのです。つまずく原因をはじめから取り除いてあげること、これが母の役割でしょうか？そのようにされた子は、何もできない人になってしまいます。だからこそ、神さまは、「あなたの生まれ故郷を離れて、わたしが示す地に行きなさい。」言ったり何も言わないのです。けれど、「あなたの足の踏むところ、わたしがあなたと共にいて全てあなたに与える」と約束しました。大事なことはこれなのです。神さまは、手取り足取り教えるわけではないけれど、その人と共にいて、その人が困ったとき助ける、と言ったのです。私たちがしなければならぬ聖書の概念はここにあります。始め、子どもは母からエネルギーをもらう。そしてそのエネルギーを受けた子が他の人たちにそれを分け与えるようになるまで待つ、ということ。しかし、待つだけでは、その子が間違った方向に行ったら、どうしようもありません。だから母には「信じる」という役割があります。子どもは両親に信じてもらうと、その両親が信じている道以外には行きたくないのです。間違った道を行きそうになっても戻ってきます。「ぼく、わたしは親に信じられていない。」と言わないでください。なぜなら、母を立てた神さまがあなたを信じているからです。

■ エルシャダイ＝母の乳房

モーセの母、ヨケベドはどんな気持ちでモーセを川に流したのでしょうか。「母の乳房」とは、神の願いなのです。イエス・キリストはペテロがつまずきそうになったとき、こう伝えます。「あなたがつまずいても起き上がるように祈っておいた。」そしてこれが、全能である父に任されたイエス・キリストの役割なのです。モーセの母ヨケベドは、どうかこの子が誰かに拾われ、育てられ、役割を果たすようにと、祈ったのです。ヨケベドは「ずっとそのように祈り続けるはずで、モーセの名前の意味は、「すくい上げる」です。ですから母に期待され信じられたモーセは、とうとう、エジプトから逃れたイスラエルの民をすくい上げる人になりました。母は自分を見つめ、その子に思いを託すのです。しかしそんな時やっではないこと、その子の目の前の障害物を取り除くことです。障害物を通して、人はその乗り越え方を学びます。神さまも私たちに手取り足取り教えてくれません。

私たちは、自らが見るべきものにもう一度目をつむって、目を向けることをしなくてはなりません。人を見て、人の言葉で判断してはならないのです。クリスチャンになって神さまとの関係が深くなると、私たちは安心します。人は、弱ったとき、その弱った人を支えることで、神さまとの関係をもどせるのです。神さまは私たちの心に触れるとき、役割を持って触れてくるのです。だから、

あなた自身が母としての役割を持つために、神さまの前に出て、母から愛される必要があると伝えています。

■ 目を閉じて感じる 強く待つ

大切なことは、聖霊さまが心に触れてくるまで、私たちは事をスタートさせてはいけないということです。私たちは、不安なまま動いてはいけないのです。間違っているから。あなたの力で神さまのルールを聞いて、行おうとします。神さまの方法を一部だけ聞いてやろうとします。だから失敗するのです。神さまが私たちにしなさいと言われていたことは、聖書が教えていることをあなたが生きて見せなさい、ということ。神さまは「わたしの前に出て、平安を受けなさい。そして、わたしと共に生きなさい。」と言われたのです。聖書の生き方とは、主が共にいる生き方です。ですから、主が共にいないのなら「やるな!」ということ。そこで、今、「待て。」と言われている。あなたの職場で問題が起こって悩んだとき、あなたの上司や家族があなたに対してふさふさしくない行動をとったとき、これはこのうえない喜びと思ってください。ダビデは言いました。「わたしは苦しみに遭ったことは幸いでした。そこで神の奥義を学んだ。」私たちが神さまの新しい段階に生きるため、力が与えられるまで待たなければなりません。あなたが事をなそうとしているとき、目をつむってあなたと神さまが共にいることを確認してください。いくら正しいことを相手に伝えても、相手は絶対に変わりません。なぜなら、正しさは相手に向いたとき、その相手は裁かれたと思うから。しかし、神さまが共にいると、人々が変わるのです。重要なのは主の命令を守ること。その命令は「待て。」ということ。神さまは私たちからは離れません。そうではなく、私たちが神さまを追いやってしまうのです。「エルサレムにとどまっていなさい。」エルサレムはイエス・キリストが十字架につけられた地です。いつも戦いのある地です。人々の人生の象徴のようなところ。」「自分が正しい。」と言って争っている場所。ところが、エルサレムとは、「平和」という意味なのです。イエス・キリストは、弟子たちにこのエルサレムにとどまれと言いました。あなたの人生で、問題だらけの場所(家庭、職場・・・)、そこにとどまって待て、と言われたのです。そこから逃げるとは言われていないのです。弟子たちはエルサレムにとどまっていたとき、聖霊さまの力を受けて、そのエルサレムを変えたのです。私たちは、母の目線を持って信じるのです。腐ったエルサレムが、神の平和の場所になるのです。イエス・キリストが戻ってこられるのは、その問題のただ中なのです。母は、問題から逃げず信じて待つ、神さまの力を受けたとき、主がせよと言われたことを信じて行うのみなのです。あなたは今日、古いエルサレムに生きるのをやめて、そのエルサレムに起こる新しい神の計画をもう一度信じるべきです。

■ 過去の鎖

皆さんの中にある愛せないという気持ち、母なのにその子を信じることができず何かをしてしまうこと。もしかしたら、あなた自身があなた自身を信じられなくなっているのかもしれない。いまあなたは 2 つの話聞いています。母の役割をどう生きるか、そしてあなたは自分の過去を解決されているか、ということです。あなたが母として生きるために、しっかりと過去と自分を今、抱きしめてください。神さまはずっとあなたを見ていました。ずっとあなたを抱きしめていました。あなたは一人ではありませんでした。両親の役割は、神さまが共にいることを伝えるための道しるべであって、良から悪かろうが道しるべなのです。神さまは今、あなたに愛していることを伝えるために「エルサレムにとどまって、わたしの力を着せられるまで待っていなさい。」と言っています。「待ちなさい。心を落ち着かせて待ちなさい。わたしの約束の霊があなたに与えられるのを待ちなさい。足を踏み出す前にわたしと共にいなさい。」と言われています。すると主はあなたに力を着せてくれます。そうすると変わるのです。あなたも造りかえられるのです。あなたが蒔いてきたことがどれだけ感謝であったか、あなたの子どもたちも知るようになるでしょう。今もし、親子関係で何か起きていたら、まずあなたが神さまに愛されていることを知るためにそのことを知ってください。まず神さまの元に帰ってください。鎖が解き放たれ、あなたは回復されるようになるでしょう。するとあなたは、その人を外郭的に包み込み、その人が間違った道にそれないために、その人を信じて守る大きな要塞になるのです。彼らはその中で、正しいことを選ぶでしょう。母の役割は、父なる神があなたを信じて待つように、あなた自身が子どもたちを信じることです。

(要約者:秋山恭子)

(2020年5月10日)